

雪に負けた！

松浦 純子

コロナが流行する前の二〇一九年までは、ほぼ毎年冬休みにヨーロッパに旅行していた。終業式が終わってから十日間ほど行っていたので、帰国が三学期の始業式の前日や二日前になった。飛行機が飛ばなかったらとか、飛行機が遅れて始業式に出勤できなかったらと、いつも帰る前日から心配だった。今年は札幌の娘宅への旅行であり、しかも講師になったので終業式にも始業式にも出る必要がない。その点は余裕で旅行に専念できるはずだった。

「ミュンヘン・クリスマス市」や「さっぽろホワイトイルミネーション」、そしておいしい回転寿司にも行くつもりで、張り切って自宅を出たが、早くも成田空港で計画倒れの予感。空港では荷物を預ける多くの人をさばききれず、カウンターが混雑して飛行機の出発が一時間遅れた。更に新千歳空港では雪のために滑走路の一つが閉鎖されたのですぐには着陸できず、四十分ほど上空を旋回。朝早く起きたことも手伝ってこの時点で疲れてしまった。

娘がJR札幌駅で待っていてくれて、一緒にバスで家に向かった。家の近くのバス停で降りたのはいいが、みぞれ混じりの雪の寒さは半端ではない。また、一歩足を前へ進めるごとにズブツと真っ白い雪の中にブーツが埋まり、中まで雪が入り込む。そこを脱出したら次は泥と雪の混じったドロドロ道へ。滑らないことだけに集中して、普通なら三分の道を十分かけてやっと家にたどり着いた。

以前、冬に札幌に行った時は大通りで催される冬の風物詩のイベントを見に行けた。今年は大雪で行くのを諦めた。家の近くでは朝六時から除雪ドーザが車道の雪を歩道側に積み上げていた。家の前の歩道は雪が止んだ時に住人が雪スコップで除雪する。店舗の駐車場などは業者に頼んで除雪してもらっているようだ。除雪しても雪はまたすぐに積もる。

札幌はクリスマス寒波やその後の大雪で、雪に不慣れな私は娘の家から出ることができず、結局行き返り以外はほぼ家の中で過ごした。今回の旅行は、家中から雪の積もり具合と除雪の仕事を観察するだけで終わってしまった。